



レポートのスケジュール設定

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [スケジュールアクション \(2 ページ\)](#)
- [レポートのスケジュールの作成 \(3 ページ\)](#)
- [夏時間とスケジュール設定されたレポート \(8 ページ\)](#)
- [レポートとタイムゾーン \(8 ページ\)](#)

概要

スケジュールをセットアップすることにより、レポートの定期的な反復生成を自動化できます。スケジュールエンティティによって、データセットの大きい複数のレポートを一度に実行し、多数のユーザへ送信して閲覧できるようにすることができます。

スケジュールエンティティにアクセスできるのは、レポート作成者およびシステム設定管理者の権限を持つユーザだけです。システム設定管理者は、どのレポートでもすべてのスケジュール関連の機能を実行できます。スケジュール設定されたすべてのレポートの、表示、編集、および実行と、レポートのスケジュール作成を行えます。レポート作成者は、自分が作成したレポート、または表示権限を持つレポートに対してのみスケジュールを作成できます。

次のようにレポートをスケジュールできます。

- あらかじめ決められた時刻に実行
- 自動的にレポートを電子メールで送信
- リモート ロケーションにレポートを保存



(注) スケジュールはサーバのタイムゾーンに基づいて実行されるため、[スケジュール (Schedule List)] ページでは、[次回の実行 (Next Scheduled Run)] 列にサーバのタイムゾーンが反映されます。

スケジュールアクション

アクション	説明
ツールバーのアクション	
検索	スケジュールの検索。
すべて	すべてのスケジュール（Large、Disabled、Email、および SFTP）をリストします。
大量スケジュール	すべての大きなスケジュールをリストします。
無効	すべての無効化されたスケジュールをリストします。
電子メール	電子メール配布用に設定されたすべてのスケジュールがをリストします。
SFTP	リモートロケーションに保存するように設定されたすべてのスケジュールをリストします。
更新	スケジュール ページを更新します。
新規	新規スケジュールを作成。詳細については、「レポートのスケジュールの作成」を参照してください。
省略記号 (...) のアクション	
編集	スケジュールの編集。 また、スケジューラ名をクリックしてスケジュールの詳細を編集することもできます。 編集モードでは、スケジュール名の横にあるアイコンをクリックして、スケジュールのプロパティ（名前とスケジュールの種類）を編集できます。
有効または無効	スケジュールを有効または無効にします。
削除	スケジュールを削除します。

関連トピック

[レポートのスケジュールの作成](#) (3 ページ)

レポートのスケジュールの作成



(注) ライブ データ レポートはスケジュール設定できません。

手順

ステップ 1 左側のナビゲーション ウィンドウで、**スケジュール** をクリックします。

ステップ 2 [新規 (New)] をクリックします。

ステップ 3 **新しいスケジュールを作成する** ダイアログボックスで、スケジュールの名前を入力し、**スケジュールタイプ** を選択します。使用可能なスケジュールの種類は次のとおりです。

• 大量スケジュール

- システム設定管理者のユーザのみに表示されます。
- 大規模なスケジュールを使用すると、8000を超える行の大きなレポートに使用できません。

(注) 大規模スケジュールには、25000 行の上限があります。

- 大きなスケジュールは、CSV ファイル形式のみをサポートします。
- システム設定管理者は、最大で6つの大量スケジュールを作成できます。管理者に問い合わせ、大量スケジュールの数を増減できます。
- 大きなスケジュールは1日に1回の頻度に制限できます。

重要 複数の大規模なスケジュールがある場合は、それらを同時にスケジュールしないようにしてください。

• 普通スケジュール

ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 **レポートのスケジュール設定** タブで、スケジュールされるレポートを選択し、フィルタデータを設定し、スケジュールの詳細を設定します。

フィールド	説明
レポート	
レポート	スケジュールするレポートを選択します。

フィールド	説明
フィルタの設定	<p>このチェックボックスをオンにすると、[フィルタ基準 (Filter Criteria)] ボタンが有効になります。[フィルタ基準 (Filter Criteria)] ボタンをクリックして、レポートのフィルタ基準を設定します。</p> <p>レポートのフィルタを設定する方法の詳細については、「レポートフィルタ」を参照してください。</p> <p>(注) チェックを外すと、デフォルトのフィルタが使用されません。</p>
スケジュール	
開始日	<p>カレンダーアイコンをクリックして、[開始日 (Start Date)] を選択します。</p> <p>(注) 開始日には、ユーザのタイムゾーン設定が使用されます。ユーザにタイムゾーンが設定されていない場合は、レポートサーバのタイムゾーンが適用されます。</p>
終了日	<p>[終了日 (End Date)] のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : 終了日がないことを示します。 • [期限 (By)] : カレンダーアイコンをクリックして、終了日を選択します。
繰り返し	<p>スケジュール設定されたレポートの定期的なパターンを指定します。</p> <p>(注) 終了日に達したスケジュールは、24時間の保持期間の後に消去されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [1回 (Once)] : 1回だけ実行する場合の実行時刻を指定します。 • [毎日 (Daily)] : 何日ごとに実行するかを指定します (4日ごとなど)。 • [毎週 (Weekly)] : スケジュールされたレポートを実行する週数と曜日を指定します。 • [毎月 (Monthly)] : スケジュールされたレポートを1ヵ月に一度実行する日と、それを繰り返す月数を指定します。 <p>(注) 月の最後の日を指定するには、[最後 (Last)] を使用します。</p>

フィールド	説明
頻度	<p>スケジュール設定した日にレポートを実行する回数を指定します。</p> <p>(注) レポートの実行スケジュールとして設定できる最大頻度は、5分ごとです。</p> <p>大規模なスケジュールを実行できる最大頻度は1日に1回です。</p>

ステップ6 [次へ (Next)]をクリックします。

ステップ7 **宛先設定** タブで、スケジュールされたレポートを電子メールで送信し、レポートの CSV 形式をリモートロケーションに保存するスケジュールを設定します。

電子メールサーバは管理コンソールで構成できます。詳細については、管理者に問い合わせるか、『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソールユーザーガイド』

(https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html)を参照してください。

フィールド	説明
電子メール	
Eメール配信	<p>スイッチを有効にして、受信者の電子メールアドレスを入力します。</p> <p>(注) [メールの配信 (Email Distribution)] フィールドに電子メールアドレスが入力されると、電子メールページの検証が実行されます。[メールの配信 (Email Distribution)] フィールドに電子メール ID が入力されていない場合、検証は実行されません。</p>
メールビュー	<p>メールで送信するレポートのビューを選択します。</p> <p>(注) スケジュールを設定できるのはグリッドビューのみです。</p>
メールの件名	件名のテキストを入力します。

フィールド	説明
メールのファイルタイプ	<p>ファイルタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [インライン HTML (INLINE HTML)] : HTML 形式でレポートを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> • 履歴レポートの上限は 8000 行です。 • リアルタイム レポートの上限は 3000 行です。 • [XLS] : Microsoft Excel の添付ファイルとしてレポートを送信します。 <p>(注) DECIMAL データ型のカスタム形式は、Excel でエクスポートされたレポートには適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 履歴レポートの上限は 8000 行です。 • リアルタイム レポートの上限は 3000 行です。 • [PDF] : レポートを横向きまたは縦向きの PDF の添付ファイルとして送信します。 <p>(注) 特定の時間に電子メールで送信するようにスケジュールできる PDF レポートの最大数は 10 個です。</p> <p>生成された PDF の添付ファイルには次の制限があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準のフォントサイズを使用します。横向きでは 10 ピクセル、縦向きでは 8 ピクセルです。PDF では、グリッドビューエディタで設定されたフォントサイズが無視され、プリンタに適したフォント出力が維持されます。 <p>(注) PDF では、HTTP 形式のイメージのみがサポートされます。</p> • 選択された向きのページ内に収まる行が保持されます。ページ内に収まらない列は切り捨てられます。 • PDF の添付ファイルでは、1000 行までサポートされます。スケジュール設定されたレポートが 1000 行を超える場合には、電子メール メッセージが送信されます。 • 列のワードラップがサポートされていません。長いテキストの場合、グリッドエディタのカラムの幅をカスタマイズして重複を避けることができます。このカスタマイズにより PDF で表示される列数が少なくなる可能性があります。

フィールド	説明
リモート ロケーション	
プロトコル	スイッチを有効にし、[SFTP] を選択してリモート ロケーションへのセキュア接続を確立します。
レポート ビュー	転記するレポートのビューを選択します。
ホスト	リモート ロケーションの IP アドレスを入力します。
ポート	SFTP のポート番号を入力します。デフォルト ポート番号は、22 です。
ディレクトリパス	ホスト上のパスを入力して .csv ファイルを保存します。ディレクトリパスは絶対パスでなければなりません。
ユーザ名およびパスワード	ホストのユーザ名と、対応するパスワードを入力します。パスワードの最大長は 50 文字です。
テスト接続	クリックして接続をテストします。

- (注)
- CSV タイプのスケジュール設定したレポートの日時形式は、Day_of_week Month Date_of_Month HH:MM:SS SERVER_TIMEZONE YYYY です。例：Fri Oct 24 01:00:00 EDT 2014。
 - CSV タイプのスケジュール設定したレポートの時刻フィールドは数単位のみで表示されます。

(注) [リモートロケーション (Remote Location)] オプションを使用して生成されたスケジュール済みレポートは、書式設定されたレポートをサポートしていません。書式設定されたレポートを取得するには、[保存先の設定 (Destination Setting)] として [電子メール (Email)] を使用します。

(注) スケジュール設定されたレポートを編集して [保存 (Save)] をクリックすると、スケジューラが実行され、[メールの配信 (Email Distribution)] フィールドで構成されているすべての受信者に、スケジュール設定されたレポートが電子メールで送信されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) スケジューラは、[レポート定義 (Report Definitions)] の [リフレッシュレート (Refresh Rate)] パラメータに依存します。ユーザは、[リフレッシュレート (Refresh Rate)] パラメータを [スケジューラ頻度 (Scheduler Frequency)] よりも低く設定できます。

関連トピック

[フィルタのタイプ](#)

[レポートフィルタ](#)

夏時間とスケジュール設定されたレポート

夏時間はスケジュール設定されたレポートに次のように影響を与えます。

1. 毎日特定の時間に実行するようスケジュール設定されたレポートは、時間が先に進む日にはスキップされます（夏時間に変わる場合など）。たとえば、毎日午後 10 時半に実行するようスケジュール設定されているレポートの場合は、時間が 1 時間進むと、その日の実行がスキップされます。
2. 1 回だけ実行するようスケジュール設定されたレポートが時間が進む期間に実行される場合、レポートのスケジュールは新しい時間に合わせて更新されます。たとえば、午後 10 時半に 1 回実行するようスケジュール設定されたレポートがあり、時間が 1 時間進んだ場合は、スケジュール設定されたレポートの実行時刻は午後 11 時半に更新されます。

レポートとタイムゾーン

Unified Intelligence Center では、サーバ、データソース、レポート、ユーザの 4 つのタイムゾーンを構成できます。

サーバ

サーバのタイムゾーンは、インストール時にインストールウィザードで定義され、レポートには影響しません。サーバ管理者は、CLI コマンド `show timezone config` および `set timezone zone` を使用して、サーバのタイムゾーンを表示および変更できます。詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソールユーザガイド』を参照してください。

データソース

データソースのタイムゾーンは、データソースを構成するときに定義されます。これがデータベースのタイムゾーンです。

レポート

レポートのタイムゾーンは、レポートフィルタで定義されます。

コールセンターが複数のタイムゾーンにまたがっており、複数のレポートを比較したい場合には、絶対的な日付範囲と特定の期間を使用して、履歴レポートを実行します。

ユーザ

ユーザのタイムゾーンは、ユーザプロファイルで設定されます。

たとえば、ニューヨークにいるユーザが、中国オフィスの同僚によって実行されたレポートの確認を依頼されたとします。ユーザは、[ユーザプロファイル (User Profile)] ページにアクセスして同僚と同じタイムゾーンに変更し、同じ絶対的な日付範囲を使用してレポートを実行します。

タイムゾーンの考慮事項

システムは、ユーザが入力した時間固有のデータをユーザのタイムゾーンにローカルとして扱い、フィルタクエリの構築時に、この時刻をデータソースのタイムゾーンに変換します。

また、データソースから取得した時間固有のデータをデータソースにローカルとして扱い、レポートデータに日時を表示する前に、この時刻をユーザのタイムゾーンに変換します。

ユーザのタイムゾーンまたはデータソースのタイムゾーンが設定されていない場合、システムは **Unified Intelligence Center** サーバのタイムゾーンを使用します。システムでは、データソースレベルでのタイムゾーンの正規化が発生した後のみ、これらの変換が実行されます。



- (注) 週次レポートと月次レポートのスケジュールは、サーバのタイムゾーンではなく、データソースのタイムゾーンに基づきます。つまり、週と月の境界は、データベースのタイムゾーンにおける、週または月の最初および最後の日の午前 0 時となります。

次の例では、ユーザがフィルタに日時の値を入力したとします。タイムゾーンの設定に応じて、システムによってフィルタクエリのタイムゾーンが下記のように変換されます。

フィルタ値 = **2010/1/1 12:00:00 AM**

ユーザのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン
設定されている場合 (+11 GMT)	設定されていない場合 (Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを減算)	設定されている場合 (+2 GMT)	設定されていない場合 (Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを加算)

<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + データソースのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + データソースのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + データソースのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算</p>
<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + データソースのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>

次の例は、日時の値を持つデータベースを示しています。タイムゾーンの設定に応じて、システムによってレポート データのタイムゾーンが下記のように変換されます。

データベース値 = **1/1/2010 12:00:00 AM**

データソースのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン
設定されている場合 (+11 GMT)	設定されていない場合 (Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを減算)	設定されている場合 (+2 GMT)	設定されていない場合 (Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを加算)

<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + ユーザのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + ユーザのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + ユーザのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算</p>
<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + ユーザのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。